

平成 16 年度

神戸大学農学部第 3 年次編入学

試験問題 小論文

食料生産環境工学科

(注意)

1. 解答用紙(2枚)のみ提出すること。
2. 1 問題に対して 1 枚の解答用紙(裏も記入できる)を使用すること。
3. 設問は 3 問あるが、その中から 2 問を選択して解答すること。

平成16年度 神戸大学農学部第3年次編入学試験問題  
小論文 (食料生産環境工学科)

以下の3問から2問を選択して解答しなさい。

(1) 最近、田中長野県知事の脱ダム宣言が大変有名になっています。全国のダム反対論者を勇気づけています。また、数年前アメリカで大ダム建設を中止し、中小ダムに切り替えることが決定され波紋を呼びました。

しかし、私は、ダム不要論は採りません。言うまでもなくダムは治水だけでなく、農業や発電にも役立っています。鹿児島県のシラス台地は水がないため、長く不毛の地と言われていました。昭和初期まで数十メートルを超す深井戸を掘り、釣瓶で水を汲んでいたのです。数十メートル綱を引いてバケツ一杯分の水しか手に入らないわけですから、水汲み仕事は大変でした。しかし、高隈ダムが完成して、今や穀倉地帯に変貌しました。四国高松の毎度の渇水騒ぎも高知県の早明浦ダムから貰い水して何とかしのいでいるのです。

・・・(中略)・・・

もちろん、だからといって、私はダム建設積極推進論者でもありません。なるべく自然を壊さないほうがよいに決まっています。自然に手を加えるのですから、不可避免的に影響が出てきます。自然はシームレスの織物に喩えられるように、複雑な有機体だからです。・・・(治水とダム；信州大学自然災害・環境保全研究会編より抜粋)

ダム建設の是非に関して、河川と共生する治水・利水の観点から、あなたの考えを述べなさい。

(2) 平成14年4月に農林水産省は「食」と「農」の再生プランを発表した。そしてこのプランの柱である「都市と農山漁村の共生・対流」を進める具体的な措置の一つとして農林水産省は「e-むらづくり計画」を発表した。この計画はITを活用した効率的な農林漁業の展開や農山漁村の生活環境の向上、都市と遜色ない情報基盤の実現を目指すものである<sup>1)</sup>。

「e-村づくり計画」の基本的な考え方として次のような記述がある。

農林漁業では農林水産物の生産性を高め、流通コストを削減するとともに、効率的な農林漁業経営の促進（経営の多角化、新たな市場開拓等）が求められている。また、国民の「食」に対する信頼の回復も喫緊の課題である。

農山漁村では、近年の急激な社会構造の変化の中で、農林漁業就業者数の減少と混住化が進んでおり、さらに、高齢化・過疎化の進展等により活力が低下しつつある。また、国民の価値観や生活様式の多様化により、農山漁村は食料供給の役割のみではなく、都市の多様なニーズに応える場として期待されている。

これらの課題や期待等に応じていくためには、地域の個性やニーズに応じて、情報利活用システムの充実、情報通信基盤の整備、情報利活用能力の向上を行うとともに、IT関連技術開発等を総合的かつ計画的に進めることで、農林漁業経営の効率化、農山漁村の振興、都市と農山漁村との共生・対流に資するものとする。特に、民間事業者による情報通信基盤の整備が期待できない条件不利地域に対する施策やむらづくりとしての先導的な取り組みを中心に支援を行っていく。

また、「e-村づくり計画」の具体的目標として次のような記述がある。

農林漁業者の高齢化が進むとともに、効率的な農林漁業経営が求められる中で、情報システムやネットワーク等に加えて、ほ場や作業現場などにおいても情報の受発信がいつでもどこでも可能な（ユビキタスな）環境やITを活用したロボット技術など新たな農林漁業機械・施設等の技術開発及び普及、さらには次世代型の農林漁業の推進が期待される<sup>2)</sup>。

引用文献：

- 1) プレスリリース「e-むらづくり計画」の策定について、農林水産省ホームページ  
([http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20030709press\\_2.htm](http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20030709press_2.htm))、2003
- 2) e-むらづくり計画、農林水産省ホームページ  
([http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20030709press\\_2b1.pdf](http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20030709press_2b1.pdf))、2003

「e-村づくり計画」実現のために食料生産環境工学はどのような貢献ができるであろうか。自分の考えを述べよ。

(3) 下の文章は、2003年6月に神戸大学で開催された国際シンポジウム「多様性の中に循環型社会の未来を探る」(SSDE2003)で採択された宣言文である。これを読んで以下の設問に答えよ。

### SSDE2003 神戸宣言

かけがえのない地球環境の価値を大切に考える私たちは、いま神戸に集い地球環境の未来と人類社会の持続に向けて宣言する。

#### 1) 物質循環から、いのちの循環へ

20世紀文明の反省から、今日論議されている物質循環のみならず、海や川や大気 of 自然な循環が持つ仕組みに敬意をはらい、その再生と持続を重視し、それを基盤にしたいのちの循環を大切にしなければならない。

#### 2) 多様な試みの必要性

持続可能な社会をめざす生活と技術の追求は、多様な地域、分野、あらゆる社会的主体にその工夫と実践の役割があることを確認し、試行と経験、知見を世界的に交換し相互に検証し、成果を共有することが重要である。

#### 3) 地域の知恵と科学の知識の融合

地域や環境との関わり方を探求するに際しては、地域の知恵と科学の知識を融合した新しい方策の構築を持ってあたるべきである。

#### 4) 環境への取り組みの新しい作法

これらを実現するために、生活文化と結びついた価値観と環境倫理、すなわち環境への人間の新しい作法を、ゆっくりと築き上げてゆきたい。

(設問) 「地域の知恵」とは、伝統的な経験に基づく自然の利活用の技術と知識の体系を意味する。宣言の中で、持続可能な社会の形成のためには科学技術だけでは不十分であり、地域の知恵と科学の知識とを融合させるべきであることが謳われている。なぜ両者の融合が必要とされるのか、理由を推察して述べよ。